

# 漫画家の卵







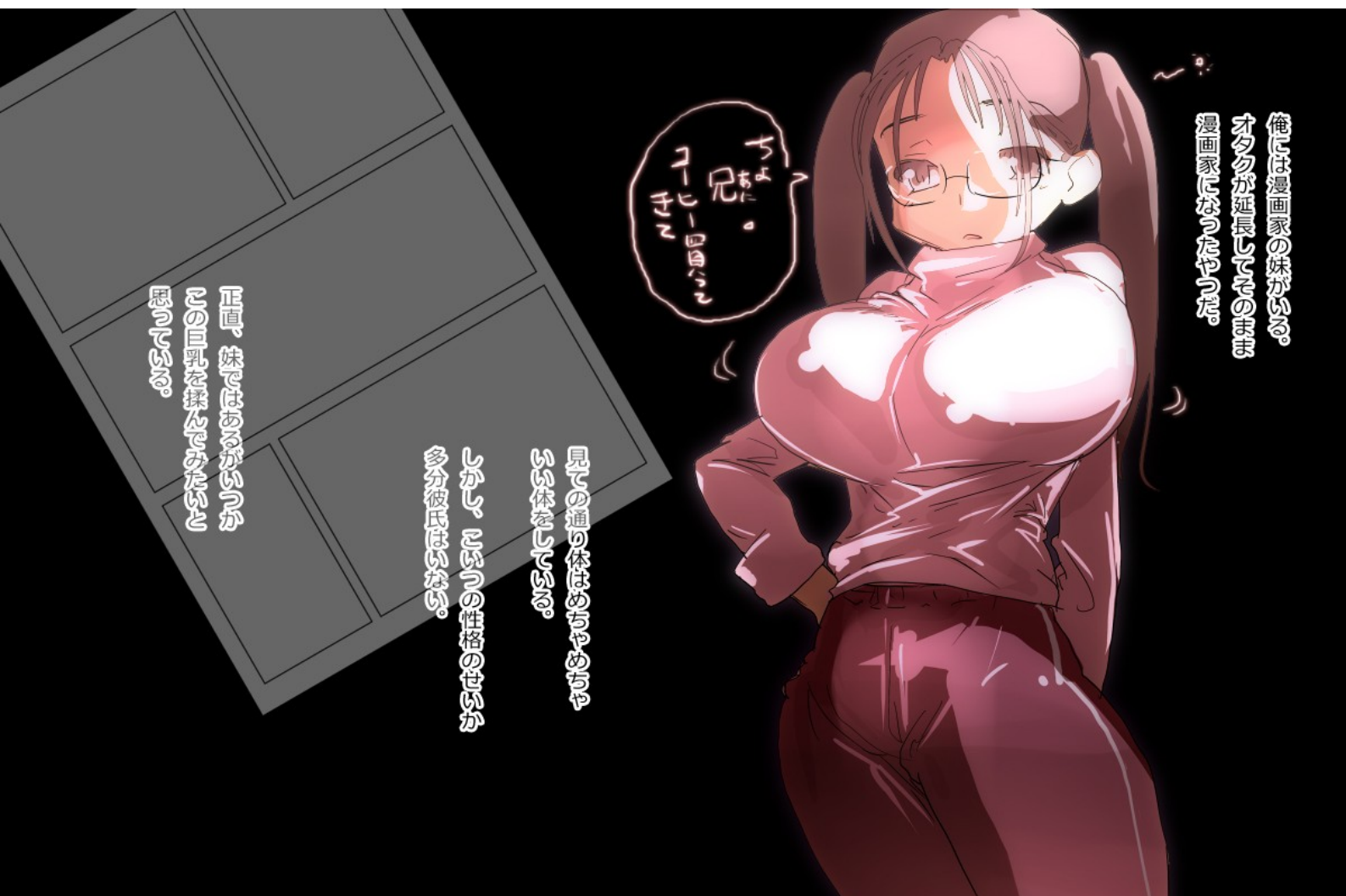
俺には漫画家の妹がいる。  
オタクが延長してそのまま  
漫画家になったやつだ。

ちよ  
兄ちゃん  
コヒーローさん  
キーン

同じ普通の妹はあんなに  
可愛くないよ。

うん、普通の妹はあんなに  
多分彼氏はないよ。

正直、妹はあんなに  
この巨乳を揉んでみたい  
と思うよ。



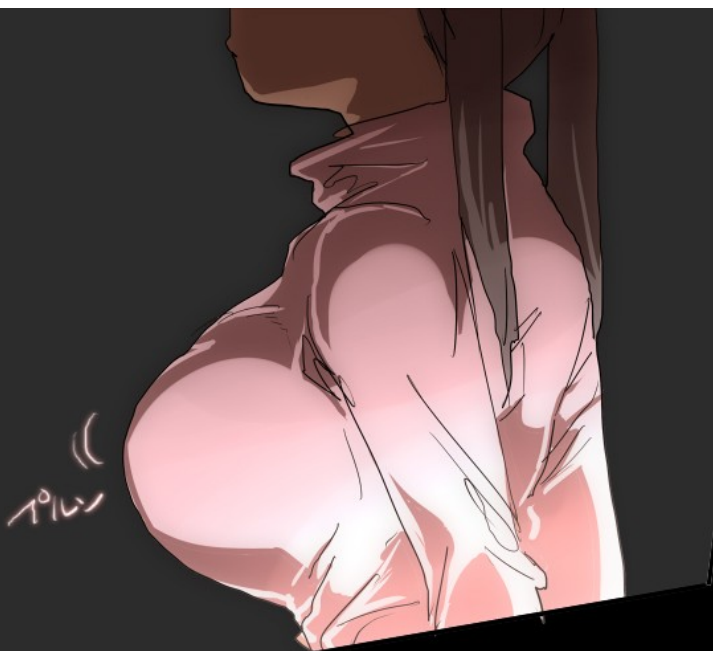
俺は家の中にいる時はつねに妹の姿を探している。

ビデオとか映像を見るよりもはるかに妹の  
ナマの乳を見た方が興奮する。

横から見た時の膨らみが特に好き。

おそくー I カムフラージュの太きまは  
あるがもしれない。

おそくー 爆乳してやっだ。



（  
アイ）

俺は事ある毎に妹の部屋の前を  
通りすぎた。

別に何がどうなるわけではなかったが、  
部屋の中で仕事をしている妹が  
気になってしょうがなかった。

しかしある日妹の部屋から変な声が  
漏れてきた。

それはまさしく  
**ア**レの音だった。

俺は部屋の中を覗き込んだ。





次第で息遣いが荒くなるので妹と  
合わせて俺をマンコをこすりつけた。

中絶と一緒にマンコをこすりつけたので  
俺は妹の喘ぐ姿に合せて興奮を  
高めていった。

妹のオナニーが終わるまで  
俺は何度も穴の中を射精していった。

この二件以来

俺の妹に対する劣情は

激しくなっていた。

部屋にいながら仕事を出発し

しかもあんな、おっぱいを握っていた。。。

毎日彼女無しでアタセクしている俺とは違って

部屋でオナニーして自分の世界に没れる妹を

めちゃくちゃしてやめたかった。

あんなにエロい体で

オナニーをして自分を慰める妹。。。

あいつが俺の彼女なら

毎日でも俺のチンポをぶち込んで満足させてやるのだ。。。

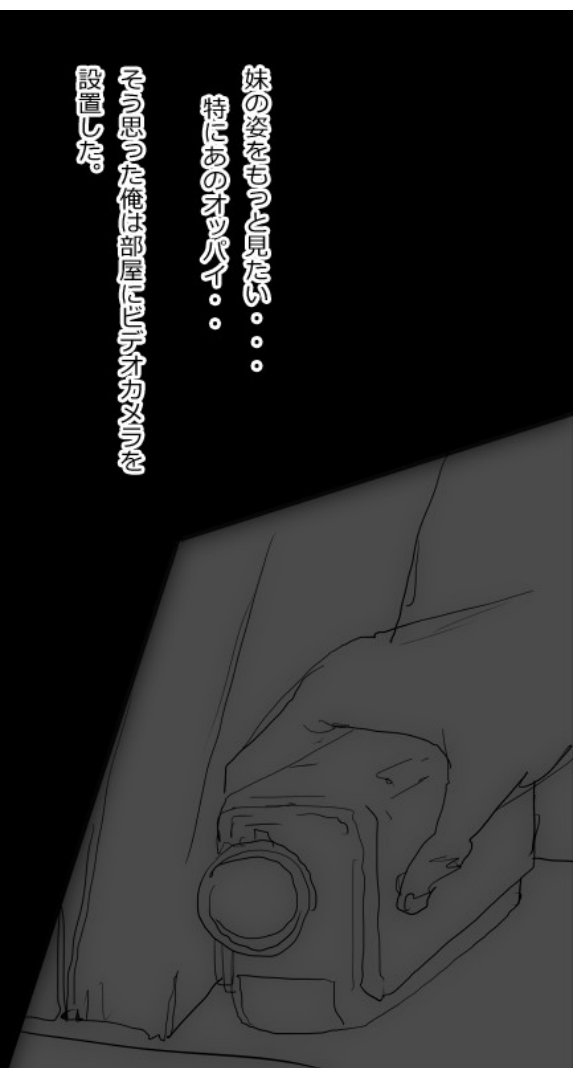
しかし肉親という壁が。。。

でも。。。

高藤が続いたが

俺は今のこの状況に耐え切れなかった。

そっつ。。。



妹の姿をもうと見たい。。。  
特にあのオツパイ。。。

そう思った俺は部屋でカメラを設置した。

オマニ中もめの巨乳をさらす事はなかった妹。

俺はそのオツパイを映像に納めてやると決心した。

妹の巨乳を撮るのは中々難しかった。

ピチオが途中で切れてしまったり、タイミングがずれて決定的瞬間を撮るのに大分苦労した。

しかし何度か試行錯誤を繰り返し、妹の生活パターンを把握していった。

PIPIPIPI...

オ

あ



カマエの位置の失敗はしたが  
なんとか巨乳を剥き出してゴキブリ  
ふける妹の姿があった。

かすかに見える巨乳や乳輪が  
余計に興奮をさせた。

そわそわする。。。

あれ以来、巨乳物のビデオばかり見たが  
やはり実の妹のオッパイはそんなビデオとは比べ物にならなかった。

俺は妹のこんな映像を「オッパイ」で検索して見つけた。

しかしある日、俺は衝撃的な事実に出会う。

妹の漫画の担当である中年の編集者が

妹の部屋に入っただけ。。。。

妹の部屋から今まで気づかなかった音が聞こえてきたのだ。

まさか。。。

俺はあせる気持ちを抑えて

数時間後にデータを回収した。

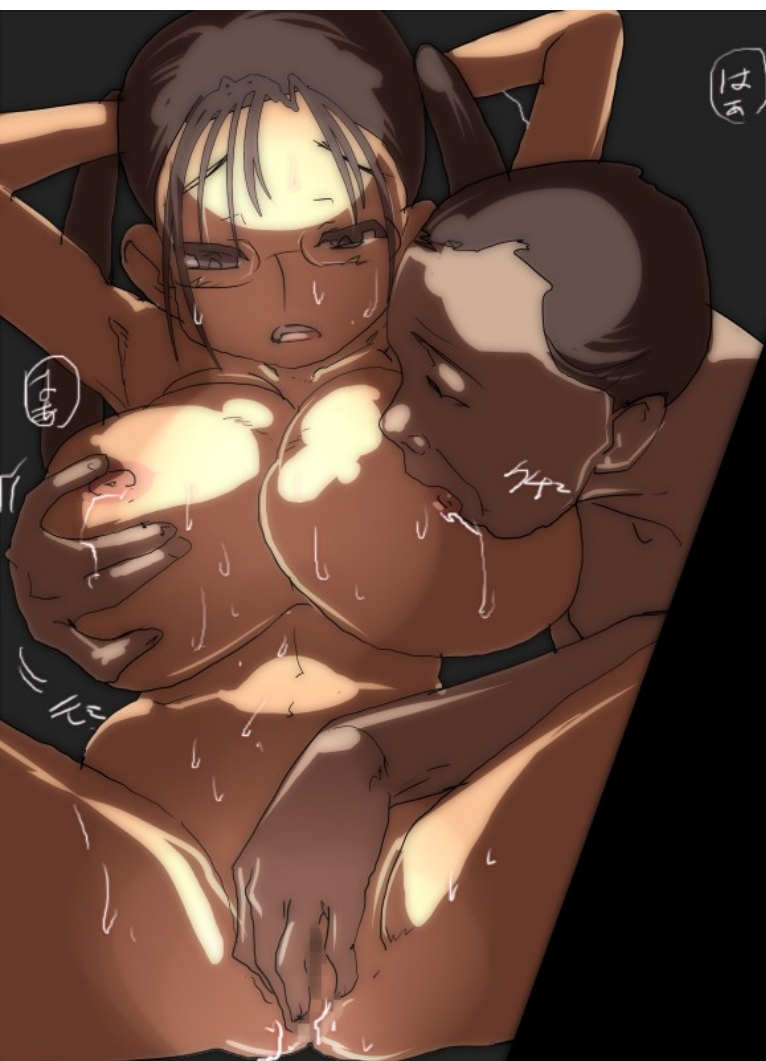
そのデータは。。。。

ビデオには中年担当者と妹のセックスの姿が映っていた。

おれほど触りたかった妹の巨乳をほろほろと舐めまわす男。

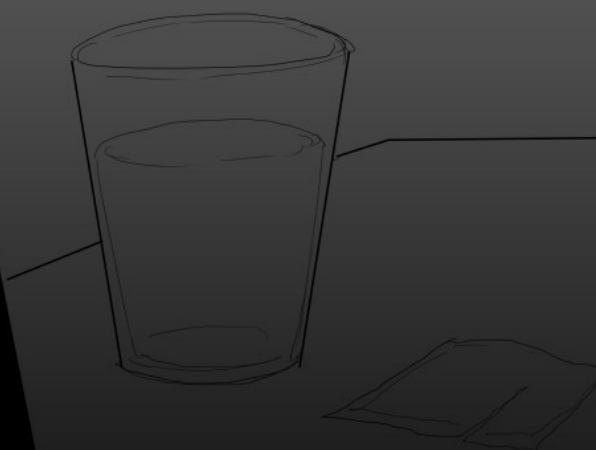
頭の中が真っ白になりそうだった。

妹がこんなやつだ。。。。









俺は妹に睡眠薬を飲ませる事にした。

アムウェイで中々目覚めなくなる間いていたアレだ。

いつも通り何の疑問もせず妹は飲み物に手をつける。

じぼろんぐろ、おねむろんぐろの部屋の本きん叩きが  
中からは返事はなかった。

睡眠薬が効いてきたのを何度も確認し、俺は

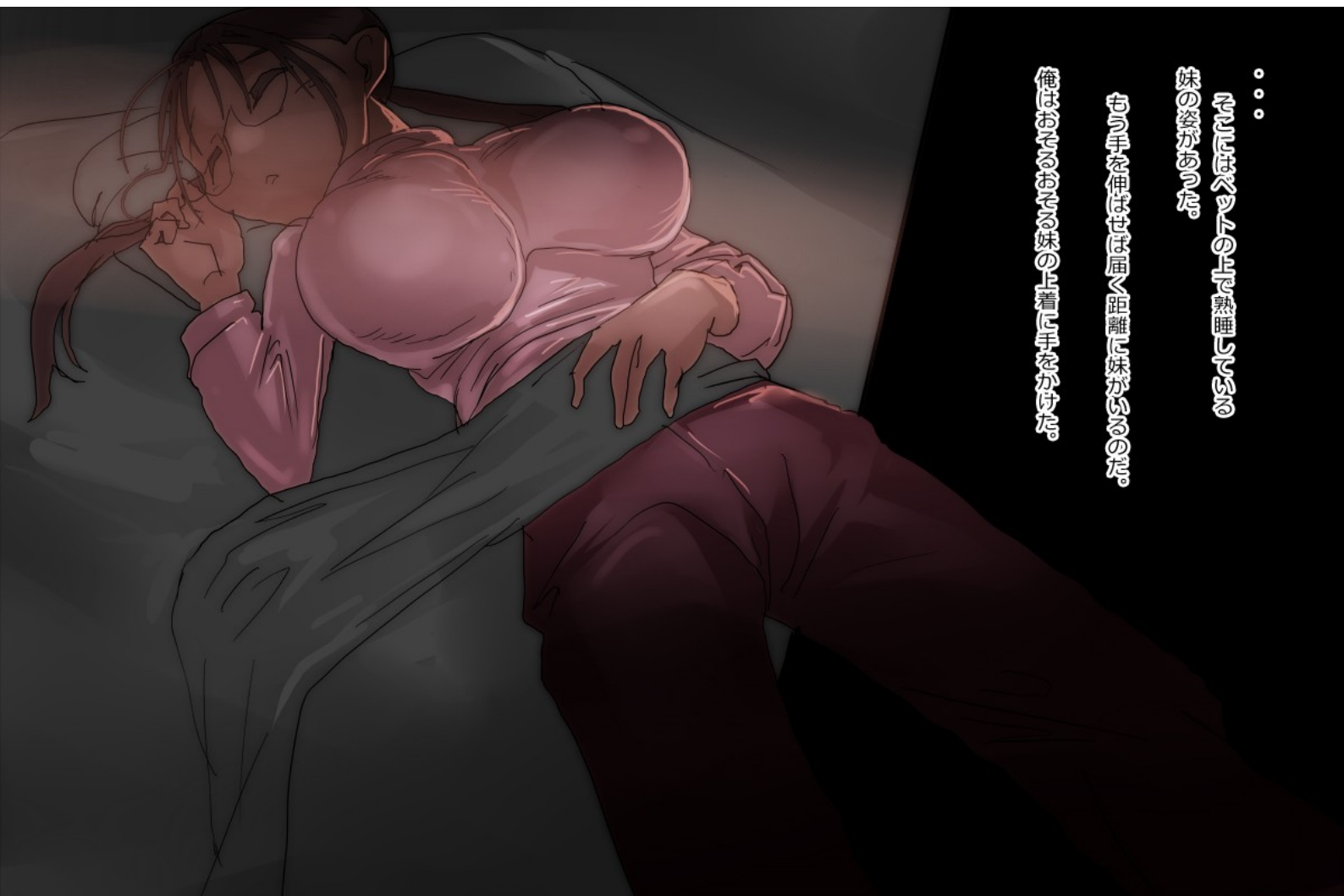
いつまで妹の部屋に侵入した。

。。。

ゆるゆると熟睡中の妹の姿があった。

少し手を伸ばせば届く距離で妹が寝ていた。

俺はおそろいおそろい妹の上着に手をかけた。



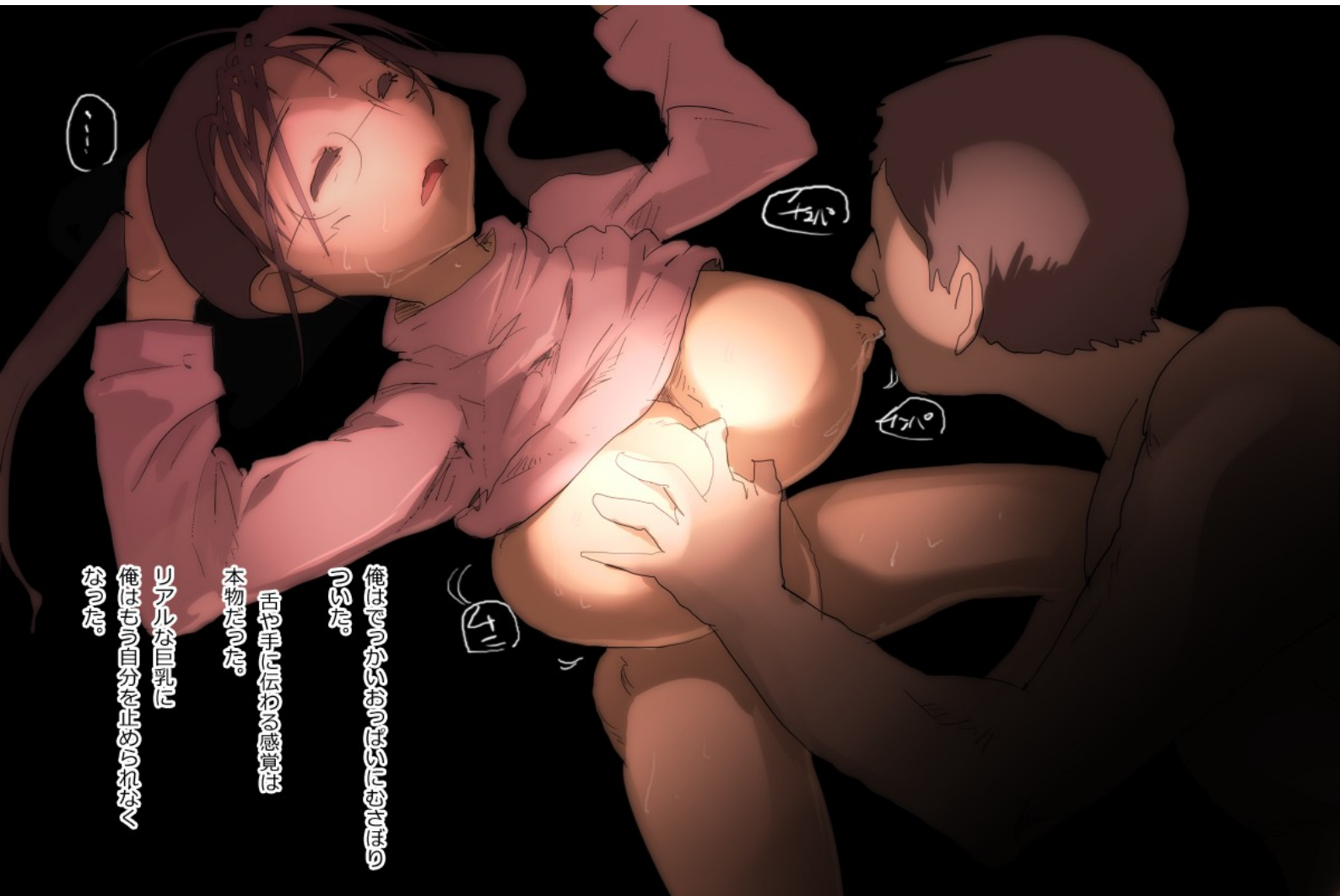
俺はのっぴりと妹の巨乳を揉んだ。

。。。 反応は無し。

手ではもっている感触は柔らかく、そのサイズの本音は俺の理性は完全に消し飛んだ。

ぽんぽん





俺はもう自分を止められなくなっ  
た。  
リアルな巨乳で  
俺はもう自分を止められなくなっ  
た。  
俺はもう自分を止められなくなっ  
た。  
俺はもう自分を止められなくなっ  
た。

...

アッ

アッ

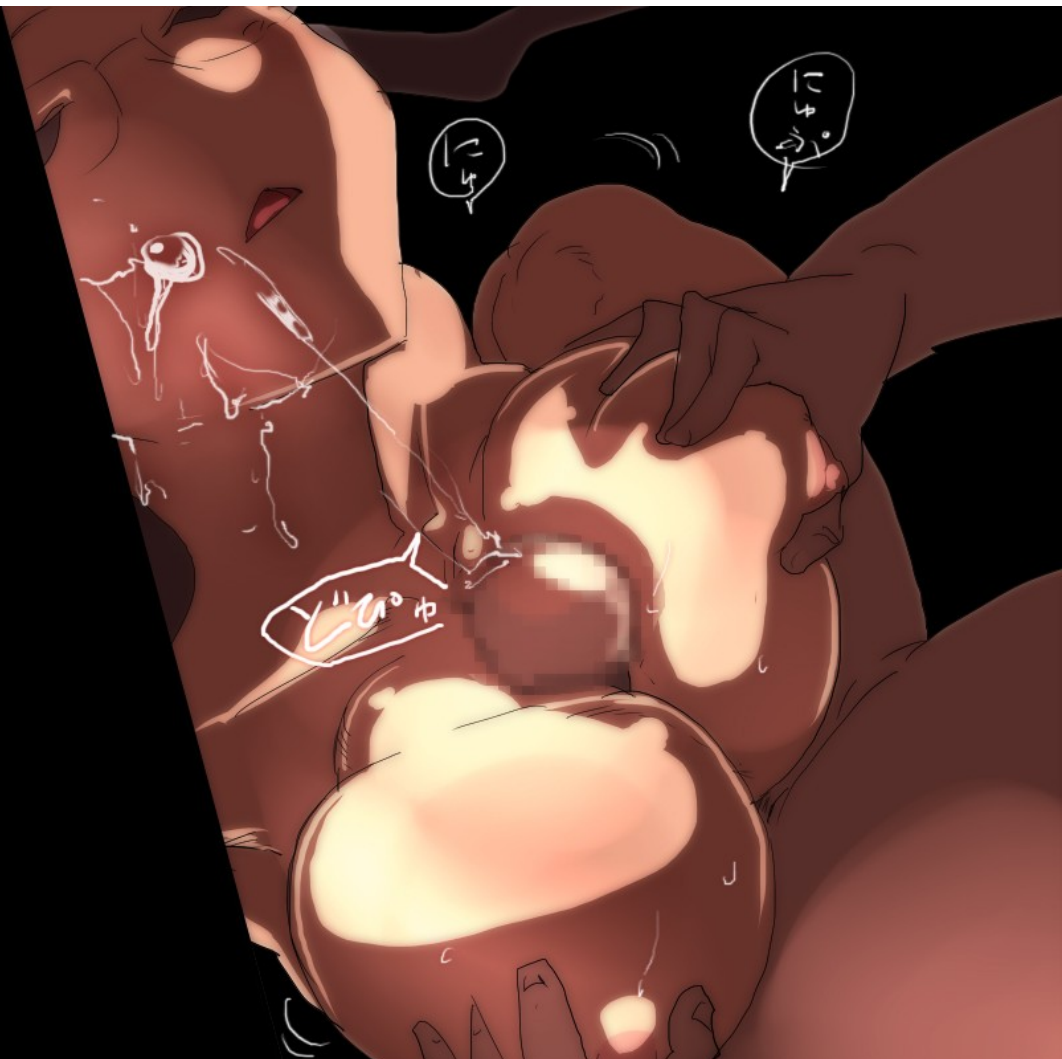
アッ



妹がいつ目覚めてもおかしくないS.A.M.S.R.N.D  
俺は自分を止めなかった。

大きな巨乳でのパイヌヒ俺の行動はより大胆なウツシタ。

ナマ乳の感触は最高だった。



俺はそのまま妹の顔面めがけて射精した。

さらさらしく精液が妹の顔から流れ落ちる。

それでも妹は目覚めなかった。

俺は一発ではちぢるんをおさまらず妹の下半身に手を伸ばした。

妹のアンクも驚らかならぬほど地がよくなった。

「ア」俺の物をなち込ませたぞ。。。

俺はまだ精液がしつこく俺のチンポをのり  
妹の肩部に押し当てた。

これで妊娠してしまったり。。。

一瞬、そんな考えが頭をよぎったが、それはそれで興奮してきた。

俺の精子で妹が妊娠する。。。

想像しただけでも興奮した。

そして俺は完全に理性を捨てて妹のアンクを  
自分の物と突っ込んだ。



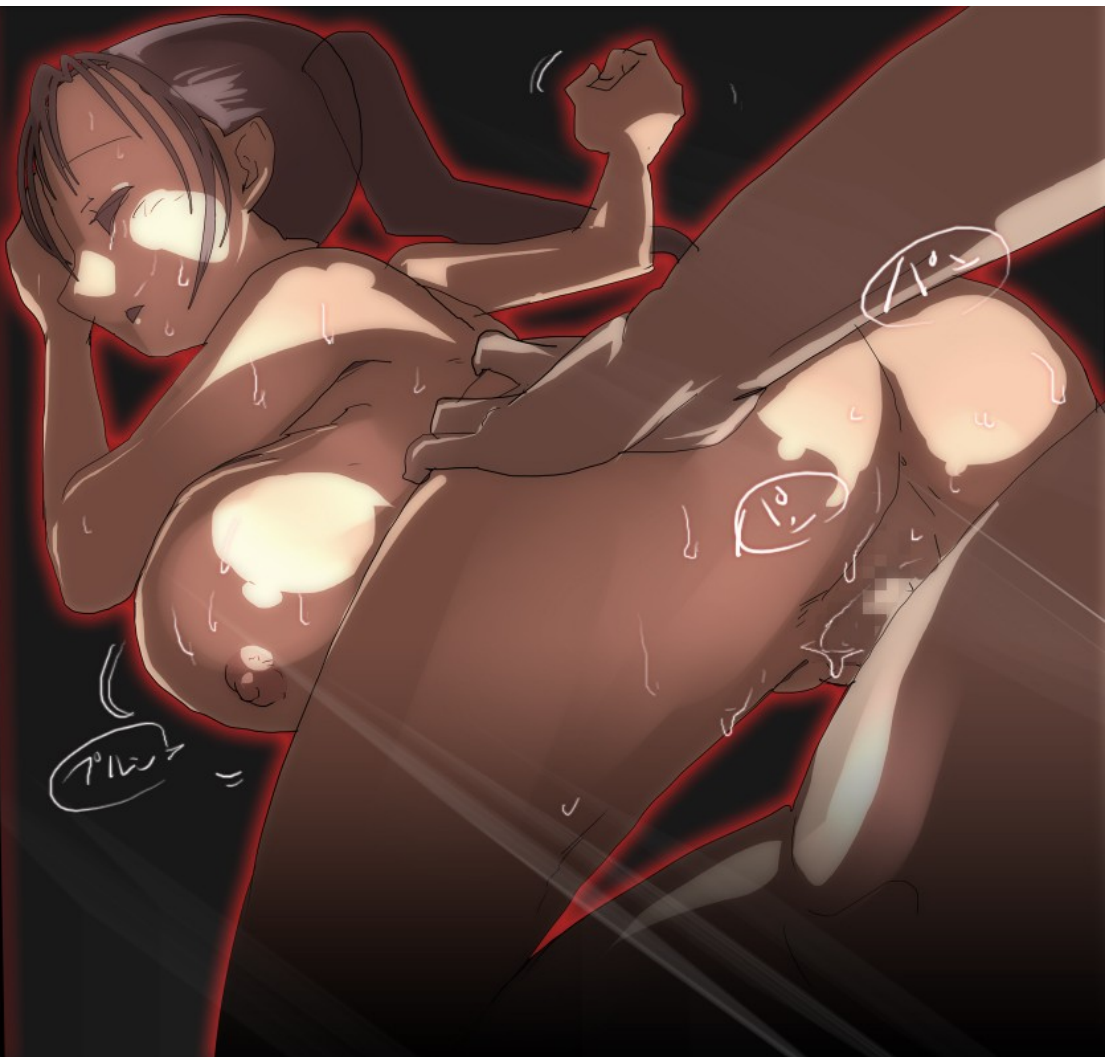
激しく腰を動かして妹を突き上げるが、妹は起きなかった。

まるで高級な本人のおもちゃのようだった。

俺は妹の唇も嘗め回し、舌も入れひたすら腰を動かした。

兄のちん〇と妹のまん〇が重なりあひ、互いの愛液で

ぐちゃぐちゃに濡らした。

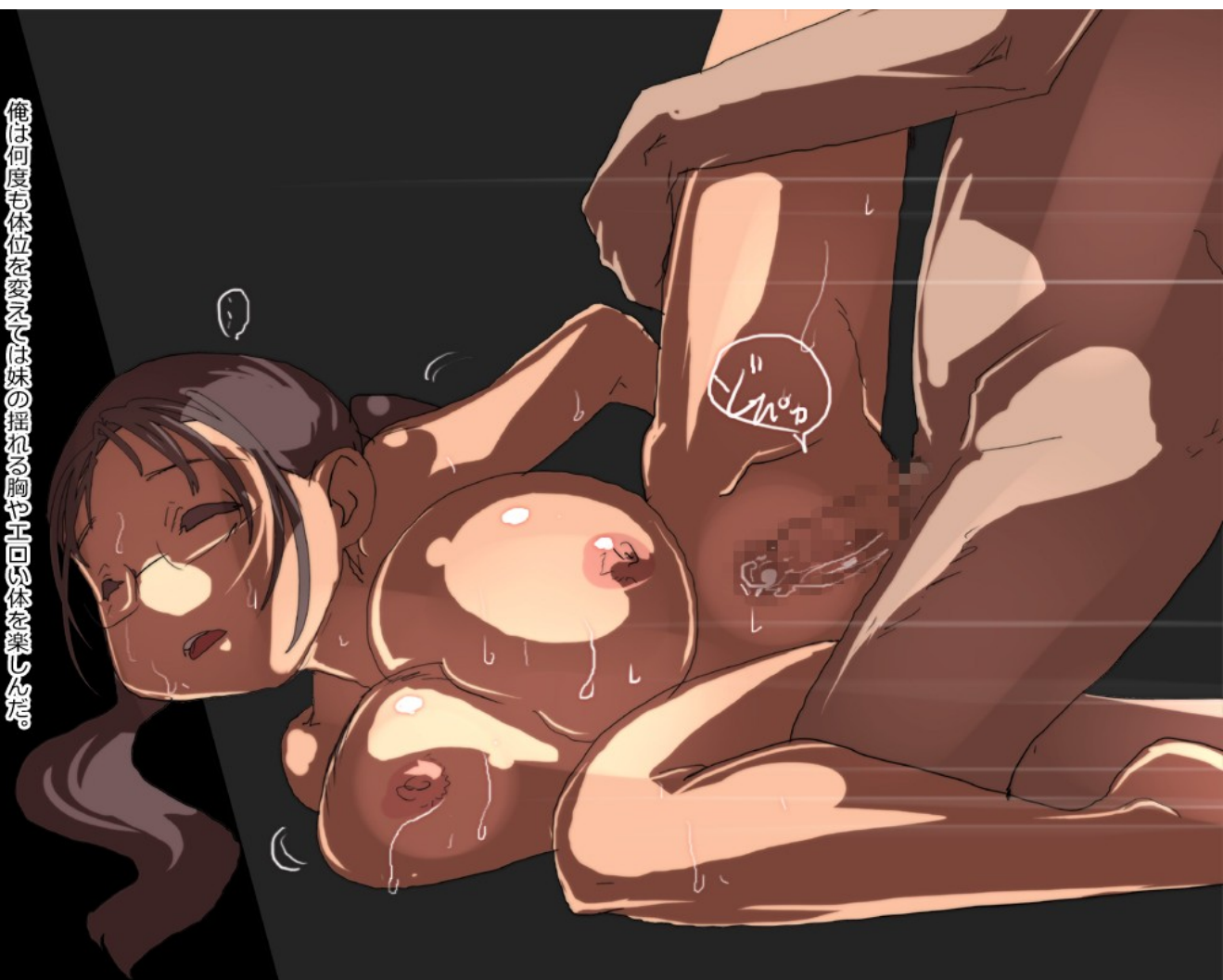


バツクからかなり強引に突き上げても妹は起きなかった。

無意識でしまるマンコが俺のマンコを締め付ける。

俺は妹のクツや揺れるおっぱいを見ながら満足感でらっぴだった。

妹はやっと俺の物になったのだ。



俺は何度も体位を変えては妹の揺れる胸やエロい体を楽しんだ。

そして

ピストン運動は次第に激しくなり

そのまま中出し・・・

妹は意識が無いが苦悶の表情を浮かべていた。



無意識でも妹の体は濡っていました。

体をビクビクと痙攣させながら

妹の膣から俺の精液と妹の愛液が混ざって

流れ落ちた。



俺は妹の口内射精をして  
やっと自身の欲望が納まるのが  
わかった。

その方法で射精して  
無防備な妹を犯せる……

中出しで妊娠して  
あの中絶手術のせいで  
死ぬ……



と3~

強引に妹を犯した後も俺は証拠を消すのに  
必死だった。

少し冷静になって考えれば大変な事をしたのだ。

妹の顔や体についた精液をふき取り  
出来る限りの証拠を隠蔽した。

もしこれがばれたり・・・

そんな不安を抱えた俺の前に

朝目覚めた妹が現れたのだった。



「あたし・・・

その・・・

最近良く眠れるんだけど・・・

変な夢を見るどころか・・・

その・・・ な・・・ やっぱ自分ばかり・・・」

俺は自分の心臓が破裂しそうにドキドキした。

はれてしまったのかとびびったがその後、妹が俺に話しかける事はなかった。

そっで・・・



その後妹は自分よりも20歳離れてしまったら中年担当者と結婚した。

くっ……あの巨乳巨尻やせななぞ……

俺はその中年担当者がうらやましくんは思ったが同時にその優越感を持つてきた。

妹の腹の中の子は果たして誰の子なのかな……

~~~~~

